

THE FUKUSHIMA 2020 INFORMATION Vol.2

最新注目ニュース

2017.12.8 (金) 発行

「1000Days to Go!」1000日前カウントダウンイベント、県内外で盛り上がりました！ 次は、2年前、500日前！

2017年10月28日(土)と11月29日(水)は、2020年のオリンピックとパラリンピックの開催1000日前という節目の日でした。
(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、この両日を「1000Days to Go!」月間としてつなぎ、1000日前イベントやキャンペーンを国内各地で展開。野球・ソフトボール競技の開催都市である福島県内の様々な団体も連携・協力して機運醸成、福島県内での競技開催のPR、復興の発信等を行いました。その一部を御紹介！



[東京2020公認プログラム1000日前カウントダウンイベント]

(主催：ふくしまアイデアコンテスト実行委員会 主管：福島大学地域経済政策研究所 共催：福島県・福島県教育委員会 後援：福島商工会議所、福島民報社、(株)みずほフィナンシャルグループ)

「ふくしまアイデアコンテスト」開催！

10月28日(土)にあづま総合体育館で開催された同イベントは、福島大学の学生が中心となり東京2020大会に向けて結成された学生団体「わだち」が、同じく首都圏で東京2020大会に向けて活動する学生団体「おりがみ」の支援を受けて開催したもので、東京2020大会を契機とし、福島のレガシーにつながる様々な企画プレゼンテーションが行われました。

県内外からエントリーした学生チーム10団体は、力のこもったプレゼンテーションを行い、最優秀賞には会津農林高校の「会津伝統野菜を未来へ〜東京リトルから世界へ〜」、優秀賞は会津大学短期大学部の「温泉地で新しい温泉卓球の検討〜短大生による福島の復興と地域を見直すきっかけづくり〜」が選ばれました。

当日は、タレントなすびさんの講演のほか、パネルブースでのフリーディスカッション等で意見交換や交流が図られました。イベントを企画した学生も含め、参加した学生たちは、今回イベントの交流等を通じて、各々がふくしまの未来を創る主体者であることを再認識していました。



(写真左：プレゼンする学生 写真右：ブースで来場者と意見を交わす学生)

[東京2020公認プログラム1000日前カウントダウンイベント]

(主催：横浜市 共催：福島県 協力：JXTGエネルギー(株))

「東京2020大会1000日前 野球競技PRイベント」が開催されました！

東京2020オリンピック野球・ソフトボール競技の開催都市となっている横浜市と福島県が、両都市での競技開催を契機に親交を深め、野球・ソフトボール競技開催をPRするための野球交流イベントを11月25日(土)に横浜スタジアムで開催しました。

イベントには、福島県浜通りの野球チームの4〜6年生で構成された「福島県選抜チーム」と「横浜市の小学生選抜チーム」等の約400人の少年、少女が集まり、野球教室やキャッチボールを通じて交流を深めたほか、最後は、親善試合を開催しました(結果は、6-5で福島県チームが勝利)。

また、当日は、本県の鈴木副知事、横浜市の柏崎副市長、東京2020大会組織委員会の布村副事務総長が出席したほか、ゲストとして福島県出身で横浜ベイスターズ初代監督の中畑清氏、同チームスペシャルアドバイザーの三浦大輔氏、大会組織委スポーツ局長である室伏広治氏のオリンピック3人も出席し、トークショーなどで子どもたちと楽しく交流しました。

今回の500日前カウントダウンイベントは福島県内で、横浜市と連携して開催する予定で、競技開催に向け、両都市の交流を密にしていきます。



(写真：野球教室)



(写真：トークショー)



(写真：親善試合後、記念撮影)

(主催：オリンピック・パラリンピック等経済界協議会 共催：東北6県ほか)

企業合同物産展

「大手町・丸の内JAPAN市 東北九州復興編」開催！

11月15日(水)、16日(木)の2日間にわたり、東京駅丸の内南口 動輪の広場を中心に、大手町・丸の内界隈に本社を有する企業各社と自治体のコラボレーションによる東北復興物産展が開催されました。期間中、約3万人を超える来場者があり、福島県が出店した(株)みずほフィナンシャルグループ本社地下2階の広場「OOTEMORI」は連日盛況。

同会場では、1000日前カウントダウンイベント「東北応援パフォーマンス」も開催され、本県文化を始めとした東北文化の魅力を発信を通じて、「東北へ」というメッセージを伝えました。



(写真：福島県物産ブース全景)



(写真：福島県物産ブースの様子)



(写真：文化ステージ)

[beyond2020認証プログラム]

(主催：ホストタウンアピール実行委員会 後援：内閣官房、復興庁、観光庁)

国内外に発信!「Host Town Lineups(ホストタウンラインナップス)」

国内外から多くの観光客が集まる東京スカイツリーの直下「東京スカイツリータウン1Fソラマチひろば」で11月11日(土)に開催された同イベントは、東京2020大会に向け、ホストタウンの登録を受けている国内自治体が集い、ホストタウンの取組や魅力を発信するイベント。

福島県ブースでは、県内のホストタウンや野球・ソフトボール競技の県内開催をPRするとともに、今が旬のリンゴ等の物販を通じてふくしまの魅力を発信しました。



(写真左：イベント風景) (写真右：賑わう福島県ブース)

[東京2020公認プログラム1000日前カウントダウンイベント]

(主催：福島県、ふるさとの祭り実行委員会)

満員御礼!「ふるさとの祭り2017in浪江」

本年3月に一部地域を除き避難指示が解除された浪江町(地域スポーツセンター)で11月25日(土)、26日(日)の2日間にわたり、福島の民俗芸能を披露するイベントである「ふるさとの祭り」が開催されました。

同イベントは、震災後初、7年振りに町内での開催となる「十日市祭」に併せて開催され、その他、ドローンフェスタ2017も併催されるなど、2日間で約3万人の人出となりました。

県内外に避難中の町民のほか、首都圏の企業がモニターツアーで参加するなど福島の今を発信するイベントとなりました。



(写真：東京2020PRブース)

(写真：十日市祭の様子)

(写真：ふるさとの祭りステージ)

PICK UP!

今さら聞けない!? “ホストタウン” って何?

POINT 1 “ホストタウン” は、地域が海外の国々と繋がるチャンス!

ホストタウンとは、東京オリンピック・パラリンピック大会の開催を地域の活性化等の推進に繋げるため、来日する国々の選手と繋がることのできる事前キャンプの誘致等をはじめとした国際交流を推進する自治体と呼ぶモノです。

ホストタウンになりたい自治体は、交流したい相手国を決め、国(内閣官房)に申請し、登録を受けて初めて「ホストタウン」になれます(複数国を対象とすることも可)。

今、多くの自治体がホストタウンとなっており、相互交流・事前キャンプ誘致等に取組んでいます。

その広がり、スポーツ、観光分野に留まらず、相手国の優れた産業や魅力ある文化を学ぶとともに、自身の地域文化等を相手国に伝えていくことで新たな地域創生へのイノベーションに繋がることが期待されています。



(写真:猪苗代町×ガーナ交流)



(写真:いわき市×サモア交流)



(写真:会津若松市×タイ交流)

「ホストタウン」は、地域のおもてなしだけの取組ではなく、自由な発想で積極的に交流を結ぶことにより、2020年以降にも繋がるチャンスなんだね。



POINT 2 “ホストタウン” のメリットとは

国では、ホストタウン登録された自治体の交流事業に対し、一定程度の財政支援等を行っており、ホストタウンが相手国と交流する負担軽減を図っています。

また、県でも、各種競技の国際会議等でのロビー活動や大使館PRによる市町村の誘致活動をサポートするほか、市町村の行う誘致活動等に対する補助制度により事前キャンプ誘致を支援しています。



(写真左:約30カ国大使館を招いたPR活動)



(写真右:国際体操連盟総会におけるロビー活動)

POINT 3 “ホストタウン” の種類は、3種類!

①ホストタウン<一般>

POINT1で紹介した全ての自治体を対象としたホストタウン。

②復興「ありがとう」ホストタウン

東日本大震災以降、被災3県復興に支援した各国レスキュー支援物資等で協力した海外の方達との交流を重視し、相手国等選手との交流は大会終了後でも可(事前キャンプに限らない)とする被災3県に特化したホストタウン。

③共生社会ホストタウン

障がいのある海外選手を迎えることにより、ユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーに繋げることを目指した主にパラリンピックを意識したホストタウン。

(写真:車イスバスケットボール女子日本代表強化合宿)



POINT 4 “ホストタウン” が創る地域の未来!

①本宮市(イギリス)

東日本大震災後、子どもたちが安心して遊べる場所として整備された市内の「スマイルキッズパーク」を平成27年2月にイギリス王室のケンブリッジ公ウィリアム王子が訪問、子どもたちを慰労されました。今年7月には、同公園内に「英国庭園」が開園するに併せ、ロンドンにある「福島庭園」と姉妹庭園協定を締結。

市は、これまでのイギリスへの感謝の思いと交流を未来に繋げるため、同国を相手国とする復興「ありがとう」ホストタウンに申請し、11月、登録されました。

2020年に向け、庭園を通じた交流の広がりが期待されます。



(写真:市内に来た英国庭園開園式典)



(写真:ウィリアム王子と交流する子どもたち)

②郡山市(オランダ)

日本遺産に認定された「安積疏水開さく」にオランダ人技師が貢献した繋がりでホストタウン<一般>に登録。

オランダからの国際交流員ヨーストさんが、市内の学校でオランダを伝える出前講座を展開するほか、市民向けのイベントやサッカー教室を開催し、オランダ等の浸透を図っています。

(写真上:オランダライデン市での郡山PR活動)

(写真下:安積疏水関連の産業遺産を紹介するヨーストさん)



野球キビタン

県内のホストタウン(一般)は、5市町(福島市(スイス)、会津若松市(タイ)、郡山市(オランダ)、いわき市(サモア)、猪苗代町(ガーナ)。復興「ありがとう」ホストタウンは、2市2村(南相馬市(ジブチ・台湾・米・韓国)、本宮市(英国)、北塩原村(台湾)、飯館村(ラオス))が登録。共生社会ホストタウンは、まだ無いよ。

COMING SOON!

「ふくしま大交流フェスタ」

12/23(土)東京国際フォーラムにて開催!

これまでの「ふくしま大交流フェア」が、名称を一新し、開催されます。福島県の各自治体の魅力を県外に広く発信する県主催の首都圏最大級のイベント!



今年は、元サッカー日本代表の中田英寿さんと知事とのスペシャル対談や福島ホープス岩村監督と元読売巨人軍鈴木尚広さんのオリンピック野球トークショーなど盛りだくさん!

もちろん東京2020野球・ソフトボール競技開催PRブースも出展しますので、是非首都圏の友人、知人を誘って御来場ください!

平昌冬季オリンピック・パラリンピックいよいよ開幕! 県ゆかりの選手たちを応援しよう!

平昌冬季オリンピック・パラリンピックが、来年2月9日(金)と3月9日(金)に開幕します。

代表選考は、これから本格化するところですが、出場が期待される本県ゆかりの選手たちを御紹介!



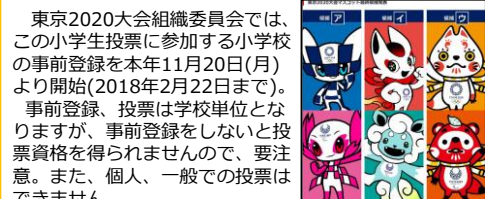
(写真:鈴木猛選手。前大会後、福島県民栄誉賞を授賞)

始めに、前回ソチパラリンピックアルペンスキー回転(座位)で金メダル、滑降(座位)で銅メダルを獲得した猪苗代町出身の鈴木猛選手には、出場だけでなく、メダル獲得も期待されています。オリンピックでは、猪苗代高校卒のフリースタイルモーグルの遠藤尚選手が、バンクーバー、ソチに続く3大会連続出場が期待されるほか、同じくモーグル女子の星野純子選手(チームリステル所属)が、前大会に引き続きの出場が期待されています。

東京2020大会マスコット決定間近! 小学生投票、事前登録開始(2018年2月22日まで)

東京2020大会のマスコット選定が、いよいよ佳境に入りました。

応募総数2,042件にも及んだマスコットデザインは、マスコット審査会の審査を経て、この12月7日(木)に最終候補3作品が公表されました。そして、1作品を選定する大役は、全国の小学生による投票に委ねられています。



東京2020大会組織委員会では、この小学生投票に参加する小学校の事前登録を本年11月20日(月)より開始(2018年2月22日まで)。事前登録、投票は学校単位となりますが、事前登録をしないと投票資格を得られませんので、要注意。また、個人、一般での投票はできません。

なお、実際の投票期間は、本年12月11日(月)から2018年2月22日(木)までとなっており、その後、集計を経て、2月28日(水)に投票結果が公表されます。

ウェブサイト「ふくしまプラス2020」への掲載の御案内

福島県では、平成29年3月に東京2020大会に向けた県内外の各種情報を発信するためのポータルサイト「ふくしまプラス2020」を開設しています。

皆様の東京2020大会に向けたイベントや取組で掲載を希望されるものがあれば、御相談ください。(サイトURL: <https://www.fuku-plus2020.jp/> 担当:スポーツ課 田部 ☎024-521-7312)

【発行日】

平成29年12月8日 発行

【発行者】

東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議事務局(県スポーツ課内)

【お問合せ】

fuku2020@pref.fukushima.lg.jp